

## 大豆の初期管理について

大豆は、初期管理が重要です。初期の生育が悪いとその後の生育にも影響を及ぼします。初期管理をしっかり行い良い大豆を栽培しましょう。

### (1) 排水対策

大豆は発芽～生育の初期には湿害を受けやすく、発芽不良や生育の揃いが悪くなるなどの影響が考えられます。また、播種期が梅雨期にあたるため、適期に播種を行うためにも排水対策は重要です。

排水の悪いほ場では、ほ場の周囲と5～6m間隔に必ず排水溝を設けましょう。また、土壤表面に雨水が停滞するようなほ場では、軽く畦を立ててから播種や定植をすると良いでしょう。

### (2) 耕起・整地

出芽の斉一化と除草効果を高めるために、圃場の土壤水分が適湿な時に碎土し、表層は細かく均一に下層は荒めに仕上げましょう。

### (3) 施肥

土壤の肥沃度によって異なりますが、下表の施肥量を目安に行ってください。  
※地力に富んだ転換畑では窒素肥料を省略しても良いでしょう。

成分名	施用量(kg/10a)
窒素	0～3
リン酸	8～10
カリウム	8～10

### (4) 種子の準備

ひどく色褪せたもの、着色粒など不良な種子はあらかじめ取り除いておきましょう。その後、紫斑病予防、鳥害防止を目的に種子消毒を行いましょう。

### (5) 播種

方法は、白大豆は直播栽培。丹波黒大豆(以下、黒大豆)は移植栽培と直播栽培があります。黒大豆の直播栽培は省力的ですが欠株が出やすくなります。

播種、定植時期は、時期が早すぎると、茎葉の生育が過多になり、生育のバランスが悪く、収量が低下することがあります。また、時期が遅いと生育が少なく収量が低下することがありますので、適期に播種、定植を行うことが重要です。

## ○白大豆

- ・播種適期: 6月中～下旬。
- ・栽植密度: 条間 70～80cm × 株間 15～20cm、1株2粒播き。深さ2～3cm。
- ・播種量5～5.5kg/10a。

## ○黒大豆

### ①直播栽培

- ・播種適期は6月中～下旬。
- ・栽植密度: 条間 100～120cm × 株間 40～50cm、1株1粒播き。
- ・播種量 1.5～2.0kg/10a

※欠株対策として、別に補植用苗を確保しておくのが良いでしょう。

### ②移植栽培

- ・播種床が 10a当たり 10 m<sup>2</sup>必要になります。
- ・6月中旬に8cm × 5cm、1粒播きに条点播します。覆土は豆が隠れる程度に浅く行います。セルトレイや水稻育苗箱を使っても結構です。約10～2週間後、初生葉展開時に、なるべく根を多く付けたまま乾かないうちに移植しましょう。

※栽植密度は直播栽培と同じです。

## (6) 除草対策

播種、移植前に十分碎土しておきましょう。草が生えている場合は、茎葉処理剤を散布し、草を枯らしておきましょう。直播栽培の場合は、播種直後に土壌処理剤を散布しましょう。

## (7) 中耕、土寄せ

- ①直播栽培の場合は本葉3葉期頃(播種後 20 日前後)に初生葉節まで土寄せします。
- ②移植、直播栽培ともに本葉5～7葉期頃(播種後 30 日前後)に第1本葉節まで土寄せします。

※種子消毒剤、除草剤に関しては、栽培暦を参照してください。

[\(戻る\)](#)